

東海新報

2020年12月20日(日)

感染症予防の原則解説

岩室医師
が講話

NPO協会の勉強会

陸前高田

陸前高田市内のNPOで組織する陸前高田NPO協会(佐々木良麻会長)は17日、高田町の市コミュニティホールで新型コロナウイルスの正しい感染防止策を学ぶ勉強会を開いた。同市ノーマライゼーション大使で、医師の岩室紳也氏が専門的な見地から感染症予防の原則を伝えた。

岩室氏は自治医科大卒。専門は泌尿器科で、神奈川県内で臨床、公衆衛生の両面に関わった。ヘルスプロモーション推進センター(オフィスいわむろ)代表で、東日本大震災後、陸前高田市で地域包括ケア、コミュニティ形成などの支援を続けている。

勉強会は、ビデオ会議ツール「Zoom」(ズーム)を使ったオンライン参加も受け付け、協会メンバーら約30人が聴講した。岩室氏は、感染防止のためソーシャルディスタンスを保つ意味やマスクの種類の違いによる感染リスクなどを説明しながら、「予防のつもりが、かえって危険になることもある。リスクと対策の正しい理解が必要」と強調した。

飛沫(ひまつ)感染や接触感染などの感染リスクとともに、予防につながる五つのエチケットを詳しく解説。「感染機会を除去、排除するのではなく、感染経路を遮断、回避することが重要。予防の感染症予防のポイントを分かりやすく伝えた」と話した。

原則は、的確な知識と行動で病原体の感染経路を適切に遮断することとエアドバイスした。協会事務局の一人は「参加者から『コロナ対策についてのモヤモヤがすっきりした』という感想もあり開催して良かった。分かりやすくポイントを教えていただき、予防策を正しく理解できた」と話した。

